

今の日本に必要なこと・・・

～失われた「50年」にしないために～

いつしか猛暑という言葉がなくなり、周囲に秋の気配が漂ってきました。“コロナ”も数字の上では減少傾向にあり、久々に“スポーツの・勉学の・食欲の、**秋**”を満喫するチャンスが訪れています。錬聖会でも、各道場が積極的に活動していることに加え、月に一度の「合同練習会 & 入門体験コース」も軌道にのり、10月以降も新たな企画を立てて、さらにパワーアップしていきます。会員の皆さまの協力を得て、コロナで傷んだ組織と活動を建て直したいと考えていますので、これら行事には、ぜひ、積極的にご参加をお願いします。



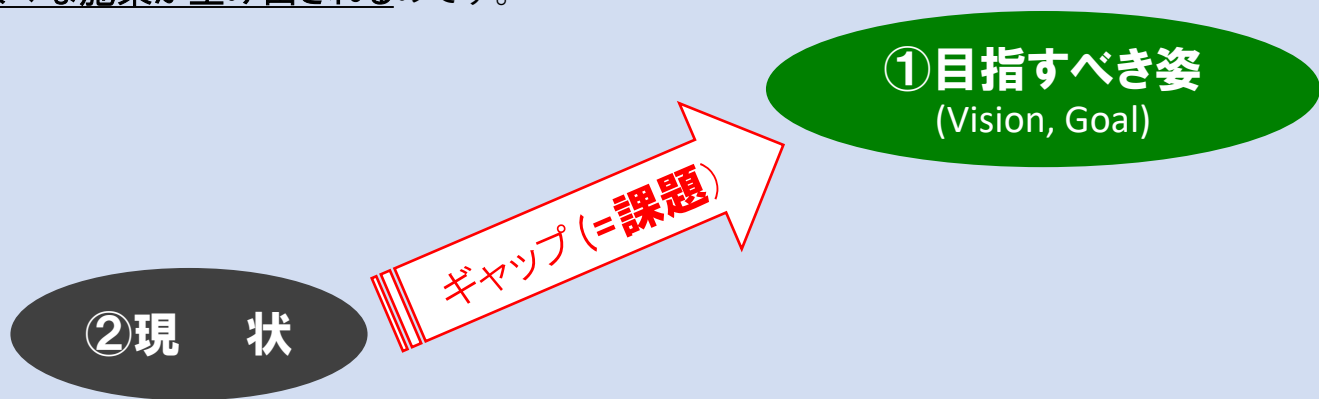
話は変わりますが、今、我が国の通貨“円”はドルやユーロに対して大きく価値を落とし、24年ぶりの円安水準に至りました。背景として、欧米を中心とするインフレ対策・金利政策などが一般論として説明されていますが、私は、そもそもの国力が低下していることが根源的な問題だと感じています。現に、IMD国際競争力年鑑によると、1991年までトップの座にあった日本は、直近(2022年)では「世界34位」にまで順位を落とし、前後はタイ(33位)、ラトビア(35位)といった状況です。なぜ、ここまで国力が低下したのでしょうか・・・。「デジタル技術の遅れ」や「組織の意思決定の遅さ」など原因について様々な指摘はありますが、いずれも現象面から見た上っ面の指摘です。本質的には、この30年間あまり(失われた30年)、デジタル技術をけん引役として、“規模の経済”から“質とスピードの経済”へとパラダイムシフトし、国際市場での競争条件が様変わりしたにも関わらず、その変化に対して追従しようとしなかったことが最大の原因だと考えます。では何故、追従しようとしなかったのか・・・

私個人的には、能力・意欲に欠ける多くの議員たち、そして保身にひた走る官僚組織、とりわけ、労働行政と教育行政に大きな問題があったと考えていますが、こういった人たちや組織には共通の特徴があります。それは、自分たちの「**使命と課題に対する認識が欠如**」し、結果として「**責任があいまい**」だということです。政策(法律)立案もせず他人のしたことに文句しか言わない政治家などは論外として、前述の人たちや組織から「我が国の将来ビジョン(目指すべき姿)」という視点、そこから派生する「わが国の国際競争力」、「それを支える人材づくり」という観点など微塵も感じられないのです。この点について、私は次の2つのことが重要だと考えています。

1. 「課題」という言葉を正しく理解して実行すること

課題とは「①目指すべき姿(目標)」と「②現状」のギャップを指します。つまり、課題を認識するためには、①と②を極力具体的に(数字で)把握する必要があります。

例えば、生活習慣病対策として減量に取り組む際、目標体重が60kgで、現在の体重が70kgの場合、その差「▲10kg(減量)」が課題です。単純な例ですが、このように「目標と現状のギャップ(課題)」を明確にすることで、一日あたりのカロリー摂取量を〇〇kcalに抑える(食事を工夫)、毎日〇〇kcal程度消費する運動を日課とする、毎日風呂上りに体組成計にのり、体重・基礎代謝量・BMI等の指標の変化を管理する等々、課題を達成するための様々な施策が生み出されるのです。



2. 「2つの責任」を認識すること

責任には「アカウンタビリティ(accountability)」と「リスポンシビリティ(responsibility)」の2つがあります。前者は、文字通り「数字を用いて、合理的に説明する責任」…言葉でごまかさずに、所定の目標に対する達成度・進捗度を明確にする責任です。後者は、「自身の役割・立場に応じて、反応(respond)する責任」…指示されて動くのではなく、自ら機敏に行動する責任です。前述の人たちや組織では、これらの責任を認識、あるいは明確にしないまま、『問題を起こさないことが最良の策(=事なかれ主義)』という価値観を蔓延らせてきたことが、失われた30年の根源的な問題だと思うのです。その旧態依然とした価値観が新しい市場原理と大きな乖離を生み出し、民間企業の活力まで殺いでしまったのです。

アカウンタビリティ
(accountability)

数字を用いて、合理的に
説明する責任

リスポンシビリティ
(responsibility)

自身の役割・立場に応じて、
反応(行動)する責任

しかし、上述のような“無責任状態”は、残念ながら、今や日本中に蔓延しています。「高い目標は精神的な負担になる」、「面倒なことにはタッチしない方が得」・・・そんな言葉を日常的に耳にしますが、それらは個人の成長を阻害するばかりでなく、組織の健全さを奪い破滅へと向かわせるものです。今の時代、「停滞は後退」です。企業は勿論、あらゆる組織の指導者、リーダーの皆さんには、常に「前に進む気概と能力、そして責任感」が求められていることをしっかりと認識していただく必要があります。

錬聖会は、すべての道場・責任者が会員の皆さまの心身の健康、空手技能の向上、および生活能力の向上に責任をもって取り組み、皆さまと共に、持続可能な組織づくりを進めて参ります。

2022年10月1日



日本空手道錬聖会
会長 森 拓生